

女性の活躍シンポジウム「女性はもっと活躍できる！」を開催しました

理事 三輪敦子

内閣府男女共同参画連携推進会議との共催により、2013年2月15日(金)に、女性就業支援センターで、女性の活躍推進シンポジウム「女性はもっと活躍できる！～女性のエンパワーメント原則 (WEPs) を手がかりに～」を開催しました。

シンポジウムではまず、『国連グローバル・コンパクト』『女性のエンパワーメント原則 (WEPs)』の視点から」とのテーマで、グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク代表理事で、国連グローバル・コンパクト・ボードメンバーの有馬利男氏と、当会の岩田喜美枝副理事長による対談をおこないました。岩田副理事長は、国連WEPsリーダーズグループのメンバーでもあります。

国連の「グローバル・コンパクト」は、民間企業の創造力により、弱い立場にある人や将来を担う世代に貢献することを目的に、国連が策定しました。「人権の支持と尊重」「雇用と職業の差別撤廃」等、10の原則からなっています。また、「女性のエンパワーメント原則 (WEPs)」は、7つの原則からなる企業における女性の活躍を後押しするための国際的原則で、国連グローバル・コンパクトとUN Womenが共同で策定しました。各企業のトップが署名することにより参加でき、2013年1月現在で、世界の528社(日本から

は175社)が署名しています。日本ではまだまだ十分に浸透していないグローバル・コンパクトとWEPsについて、皆様にご存知いただく貴重な機会になりました。(表1)(写真1)

表1 WEPsの7原則

1. トップのリーダーシップによるジェンダー平等の促進
2. 機会の均等、インクルージョン、差別の撤廃
3. 健康、安全、暴力の撤廃
4. 教育と研修
5. 事業開発、サプライチェーン、マーケティング活動
6. 地域におけるリーダーシップと参画
7. 透明性、成果の測定、報告

引き続き、第二部は、「企業における女性の活躍～未来を捉える視点から」とのテーマで、昭和女子大学学長の坂東眞理子氏にコーディネーターをお願いし、東日本旅客鉄道・事業創造本部・地域活性化部門部長の鎌田由美子氏、高島屋・元人事部長執行役員の高久充氏、中部ダイバーシティNet幹事団体メンバーの森下由季子氏にご登壇いただいて、パネル・ディスカッションをおこないました。

女性は全社員の8%という環境のなかで、エキナカ事業の成功に尽力され、30代後半でグループ会社の代表取締役社長に就任された鎌田さん、ワークライフバランス実現に向けた生産性向上やキャリア形成支援に取り組まれ、2012年には係長以上の役職の38.4%を女性が占めるなど女性の登用に向け先頭に立ってこられた高久さん、異業種間のゆるやかなネットワークを通じ、女性の活躍を後押しするための人事担当者、女性社員、経営者間の信頼関係の構築を図ってこられた森下さんのお話に続き、坂東さんのコー



写真1 対談風景

ディネートにより、パネリストそれぞれの思いが引き出される楽しく刺激的なパネル・ディスカッションとなりました。

当日は200名を超える方々にご来場いただきましたが、シンポジウムについての満足度を尋ねたアンケートでは、9割の方から「とても良かった」あるいは「良かった」との回答をいただきました。シンポジウム後にはパネリストの方を交えた交流会を開催し、参加者の皆様が今後に向けてつながる機会になりました。

今回のシンポジウムには、多くの企業からもご参加をいただき、これまでWEPsの存在と意義を認識していなかった方々にWEPsについての理解を広げる機会になりました。アンケートでは、参加企業の多くから今後

の情報提供を希望するとの回答が寄せられています。今回のシンポジウム開催から得られた成果を踏まえ、今後も、国内におけるWEPsのさらなる普及と効果的な推進に協力していきたいと考えています。(写真2)



写真2 パネルディスカッション

第57回国連婦人の地位委員会(CSW)に参加して

国連婦人の地位委員会 日本代表 UN Women日本国内委員会 評議員 橋本ヒロ子

第57回CSWが、2013年3月4日～3月15日にNYの国連本部で開催されました。

今回の優先テーマは「女性及び女兒に対する暴力の撤廃及び防止」、レビューテーマは、「第53回CSWテーマ『HIV/AIDS分野における支援を含んだ女性及び男性間の平等な責任配分』の実施状況の評価」、さらに新たに出てきたテーマは「2014年度CSWに向けた準備会合：女性及び女兒に対するMDGs実施における課題及び成果」でした。

今年のCSWの特徴として、次の3点があげられます。

- ① テーマを反映して参加者数が例年に比べて格段に多かったこと
- ② 極めて難しいテーマの合意結論に合意できたこと
- ③ UN Women事務局長のパチェレ氏の辞意表明

①については、通常NGOは3-4000人がCSWに参加しますが、今年は6000人を超えました。演説した政府代表も通常は100カ国程度ですが、今年は133か国から大臣、副大臣など高いレベルの代表団構成も100カ国を超えました。

国際機関や各国政府が主催するサイドイ

イベントが128、NGOが主催するパラレルイベントが300以上開催されました。女性・女兒に対する深刻な暴力は日々世界中で起こっており、世界の女性たちの間でも大変関心の高いテーマであることを示しています。

WHOの調査によると7割の女性が暴力を体験している国もあります。昨年10月に少女も教育を受ける権利があることを、脅迫にもめげずに訴え続けたパキスタンの少女がタリバンに撃たれました。インドでは集団強かんされた女子学生が亡くなっています。女性であるがゆえに受ける暴力を廃絶し防止すべきだという参加者全員の意思がひしひしと伝わった会期でした。

②については、「女性及び女兒に対する暴力の撤廃及び防止に関する合意結論」に委員国が合意したことです。昨年「貧困と飢餓撲滅のための農山漁村女性のエンパワーメント」を優先テーマとして開催された第56回では、合意結論がまとまらず、また、2003年の第47回CSWでは、今回と同じテーマで合意結論ができませんでした。これらの理由により、今年の合意結論については関係者から大変危惧され、会期が始まる前に、2月8日付の合意結論案がネット上に出されました。

会議が始まってみると各国から様々な意見が出され極めて厳しい状態でした。最終日の閉会1時間前に、議長案がCSWのメンバー国などに配布され、「この案は、各国の意見を妥協しながら作成したもので、パラグラフにより留保する国があっても、メンバー国は原則合意してほしい。」という説明が議長からありました。18時ごろから、合意結論の折衷案を作成した議長団、事務局に対する謝辞を各国代表が述べ閉会しました。

③閉会の挨拶を終えたバチェレさんが「事務局長としてこのCSWが最後になる」と話

され、皆さんがびっくりしました。噂では、今年11月のチリの大統領選挙に出馬されるためだということです。国連事務総長は「バチェレさんは国連のために生まれてきたような方だ」と称賛されました。彼女は次期事務総長と期待されておりましたので、日本など国連メンバー国にとっても大変残念です。

私たちは、バチェレさんの大統領選で当選と、後任のUN Women 事務局長がバチェレさんに劣らない素晴らしい方であることを祈るしかありません。

3月、バチェレ事務局長辞任、5月末、プリ事務局長代行来日

理事長 有馬真喜子

今年は早々から、UN Women (国連女性機関) にとっては、ことのほか忙しい日々でした。

3月15日、第57回国連婦人の地位委員会の閉会のあいさつの中で、バチェレ事務局長が、突然、辞任の意向を表明されたのです。「個人的理由」そして「祖国(チリ)へ帰る」と。初代事務局長は、飾らない、おおらかな人柄で、NGOにも政府関係者にも大変評判がよかつただけに、会場には大きな衝撃が走ったと伝えられています。チリで、再度大統領挑戦のうわさもあります。

今年の婦人の地位委員会は、テーマが「女性に対する暴力」ただただに、昨年同様、合意結論を得るのは難しいといわれ、事務局であるUN Womenは苦労を重ねたようです。それがまとまりました。そしてそれを

置き土産にバチェレ氏は辞任されたのです。私たちには、この貴重な置き土産を実行に移す責務があります。

後日、バチェレ事務局長は各国の国内委員会にメッセージを寄せられ、ことに国内委員会メンバーのボランティア精神と、継続的支援を称えられました。

バチェレ事務局長の後任は、この原稿を書いている6月初め、まだ決まっていません。事務局次長だったラクシュミ・プリ氏が事務局長代行です。プリ氏は、6月、横浜市で開催されたアフリカ開発会議(TICAD V)出席のため来日、パネルに出席、また政府要人らと面談しました。国内委員会は、私たちの活動を紹介し、歓迎レセプションを開催して和やかに歓談しました。



プリ事務局長代行(前列中央)を囲んで

2012年度拠出金による支援プロジェクト

皆様のご協力により、2012年度の拠出金は、
523万9839円（5万2049ドル66セント）となりました。

これによる支援プロジェクトは以下を予定し、4月11日、UN Women本部に送金しました。

- ①カンボジアにおける竹製品の品質の向上と流通の改善を通じて女性の経済的エンパワメントを高めるプロジェクト

1,836,886円(18,246.60ドル)
資生堂&資生堂花椿基金より

- ②残金は「女性に対する暴力撤廃信託基金」等を予定しています。



よこはまのショップ店内

会員からのメッセージ

UN Womenよこはまのショップの運営を担当しています

正会員個人 伊藤千鶴子

私は1995年の北京会議参加をきっかけにユニフェムよこはまの会員となり、1998～1999年ユニフェム日本国内委員会の理事を務め、2005年からは日本国内委員会の正会員個人にもなりました。

UN Womenよこはまでは、グッズの販売をしながら女性のための国連機関UN Womenの趣旨を相手に伝えることで、自らをエンパワメントできる活動としてショップを運営しています。立ち上げて10年が経過しましたが、常に新しい商品開拓が課題です。

海外で活動されている女性でUN Womenの趣旨に賛同されている方が、日常生活の中で懇意になった店で日本人好みの品物を購入し、帰国時に持ち帰ってくださったり、送ってくださったりした品をショップに並べています。販売する方も購入して下さる方も、共にボランティア活動でつながり

合って、ショップは成り立っています。

今回、日本国内委員会が支援したカンボジアの竹細工を販売することになりました。これは、私たちの拠出金が役立ったことが目に見える形となった事例です。ショップでのお客様との話題がまた一つ増えました。こんな事例が増えることが私たちの活動を支えてくれる源となっています。



カンボジア竹細工プロジェクトで訓練を受ける農村女性たち

UN Women 佐賀

昨年の10月には、「エイボン・女性のエンパワメント基金」の助成金事業として、佐賀女子短期大学こども学科1年生210名と、社会人学生、留学生を対象に、「Wen-Do講習会」を実施しました。大沼もと子さんを講師に迎えて、講義と実技を実施してもらいました。

また、11月には『女性に対する暴力をなくす国際デー・キャンペーン』にあわせて、ワールドカフェという手法を使って学習会をひらきました。「カレとワタシのあんなこと、こんなこと」と題して、DV、人権、性教育などについて、日頃考えていること、思っていることについて話し合いました。野口光子先生（佐賀大学医学部産婦人科医師）に指導助言をお願いしました。

今年に入ってから5月13日（月）に、総会を開催しました。総会終了後、会員の皆様と一般参加者へのPRをかねて、昼食会を開催しました。

事務局長 徳久栄子

UN Women 北九州

1月12日（土）、北九州市立男女共同参画センター・ムーブにおいて、女性に対する暴力に「ノー」と言おうキャンペーン「エイボン・女性のエンパワメント基金」の助成を受け、著名な社会学者である上野千鶴子氏をお招きし、「わたし本当に愛されているの？愛と執着のあいだ」と題して講演会を開催しました。当初は大セミナールームを予定していましたが、予想を上回る多くの方からのお申し込みがあったため、会場を同じビル内のホールに変更して開催しました。

上野先生のとてユニークでユーモアたっぷりの話し方に引き込まれながら、男性と女性との根本的な性差に基づく男女間の関係、そしてそれが女性への暴力に発展する過程を、わかりやすく聞くことができました。女性に対する暴力を根絶するためには、男女間のお互いの尊敬(respect)が何よりも必要であることを説かれ、多くの参加者から賛同をいただきました。

会場では、約400名の方にご参加いただきましたが、ほとんどが女性の方でした。男性にも多くの方にご参加いただきましたかった講演会でした。

事務局長 河野賢司



UN Women 大阪

UN Women大阪では、2013年2月23日（土）に、クレオ大阪西において、2013年度の総会を開催しました。

総会では、UN Womenに対し、効果的な協力がおこなえるよう工夫をこらしたキャンペーン活動を展開する他、会員の思いや意欲が反映される組織づくりを目指すことを確認しました。

2012年度は、「桂あやめ×林家染雀 姉様キングス～女性に対する暴力許しません！！」と題する、トークあり、白塗りのお化粧の実演あり、漫才ありのイベントで盛り上がりましたが、今年度は、少し趣向を変えて、「チャリティ交流会」を開催する予定になっています。UN Womenの活動を紹介するDVDを観た後、お茶や軽食で交流し、会員の皆様からの持ち寄り「チャリティ・オークション」を開催する予定になっています。

また、これまでUN Women大阪の事務局を担っていた財団法人大阪市女性協会が、新しく一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会（略称／大阪市男女いきいき財団）へと生まれ変わった機会に、事務局がクレオ大阪中央内に移転することになりました。国内委員会の正会員団体でもある大阪市男女いきいき財団と、一層、連携を深めながら、効果的で楽しい活動を展開したいと考えています。

会長 三輪敦子

UN Women 堺

3月11日、堺市主催の国際女性デーイベントが、堺市立女性センターにて開催されました。テーマは「女性の力が日本を救う」～UN Women「WEPs」拡充による女性の躍進～とし、シンポジウムなどと共に、UN Women堺の協賛による、堺市内における女性がオーナーの企業等のPRブースを設置し、企業の理念や商品を紹介しました。

また、4月21日、堺市大浜公園相撲場において、第1回国際女子相撲選抜堺大会が開催されました。リベリア駐日大使、タンザニア駐日大使など国際大会にふさわしいご来賓を迎え、タイや台湾、香港からの選手を交え18チーム総勢62名が、真剣に素晴らしい競技を披露してくださいました。UN Women堺では、相撲をオリンピックの正式種目にするために、男女が共に競技に参加することを目的に、世界中に女子相撲を普及させたいと協賛しています。ベストプレイヤー賞に、UN Women堺からトロフィーを、また、正会員の堺市女性団体協議会からも軽量級の優勝者にトロフィーを授与しました。

事務局 久保洋子



UN Women 多摩

2月17日 無事総会を終え、ほっとする間もなく、前々から計画をし、お願いしてあった有馬理事長の講演会に向け、つめの作業開始。1997年に「男女共同参画都市宣言」を行い、「市男女共同参画基本計画」に基づき、『女性のチャレンジ支援』、『ポジティブアクション』、『ワークライフバランスの推進』など、女性の自立に向けた取り組みを進めている羽村市のコミュニティーセンターで市の後援をいただき、やっと理事長に来ていただくことができました。何とか多摩地域で理事長の講演会をと長年おもいながらなかなか実現できなかったのが、構成委員会として、とてもうれしいことでした。

しかし、いままで30～40名位の小規模な講演会、研修会、チャリティコンサートしか実施してこなかった私たちには、100名を越す席をうめる事ができるだろうか？不安いっぱいチャレンジでした。しかし当日150名近い方々にいただき、羽村市だけではなく、青梅市、あきる野市、瑞穂町、日出町、昭島市等近隣の市町からも多数の方に来ていただきました。有馬理事長の

講演は、面白く、解り易く大好評でした。その後のチャリティコンサートも大変喜ばれました。コンサートに参加した若い人たちも熱心に講演を聴いてくれました。すぐに活動につながるには期待できないけれど、若い方々の今後の生き方に大きな影響を及ぼしたのではと思います。

事務局長 小川裕未

UN Women よこはま

2013年は例年通り2月17日の総会から活動が始まりました。総会後はこれも恒例になった親睦ランチとバザーが開かれました。総会ではいつもは活動に参加されない方にもお会いでき、絆を確認する機会にもなりました。

2013年前半のハイライトはなんと言ってもMKコールによるアフリカの歌で幕を開けた国際女性デーです。今年は6月に開かれる第5回アフリカ開発会議(TICAD V)のパートナー事業と位置づけ、「アフリカの女性たちのエンパワーメント」について考えました。講師には勝俣誠明治学院大学国際学部教授をお招きし、先生のご専門であるセネガルを中心にアフリカの様子、女性が置かれている状況などを話していただきました。その後日本国際ボランティアセンター南アフリカ事業担当の渡辺直子さんに加わっていただき、それぞれの経験に基づいた臨場感あふれるお話を伺いました。第2部の交流会では「洋光台ジェンベの会」のメンバーがご自分の子どもと太鼓の競演をし、拍手喝采をあげました。会場には交流のあるNGOが特徴のあるグッズを販売して華を添えました。

地域のお祭りにお店を出す機会も3回ありました。一番最近のものは5月11～12日に本郷台でおこなわれた「あーすフェスタかながわ」です。毎年規模も大きくなり、売り上げも増えています。

広報部会長 本田敏江



UN Women 東京

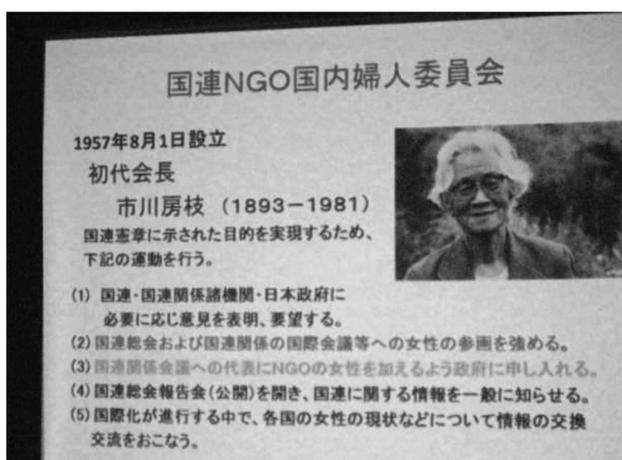
今年2月、第67回国連総会に政府代表顧問としてUN Women東京の鷺見八重子会長が出席しましたので、2013年度総会の記念講演に「UN Womenの課題～私たちができること」と題し、鷺見会長が映像と資料で国連の仕組みや経済社会理事会・第3委員会の解説をしました。

1956年市川房枝さんが設立した「国連NGO国内婦人委員会」が国際会議にNGOから女性の代表を送るよう政府に申し入れた結果、国際的活動をしている女性団体から政府代表代理が派遣され、経済社会理事会の諮問資格を有して社会・人道・文化にかかわる第3委員会に出席できるようになったことが説明され、出席者からは解りやすかったと感想がありました。

第3委員会ではスリナムのヘンリ・マクドナルド大使が議長を務め、日本からはUN Women執行理事国として昨年のCSW「自然災害とジェンダー」決議にある男女共同参画の視点の強化の観点からのステートメントがあったこと。私たちができることとして、女性議員や指導的地位に就く女性の数値を上げ、草の根のNGOの精神が大切であると結論が見出されました。

また主たる活動のチャリティコンサートやシリーズ学習会「映画で学ぶ世界の女性たち」の企画やバザー参加が好評を得て、拠出金づくりも順調に歩みを進めているところです。

広報委員 鈴木賀子

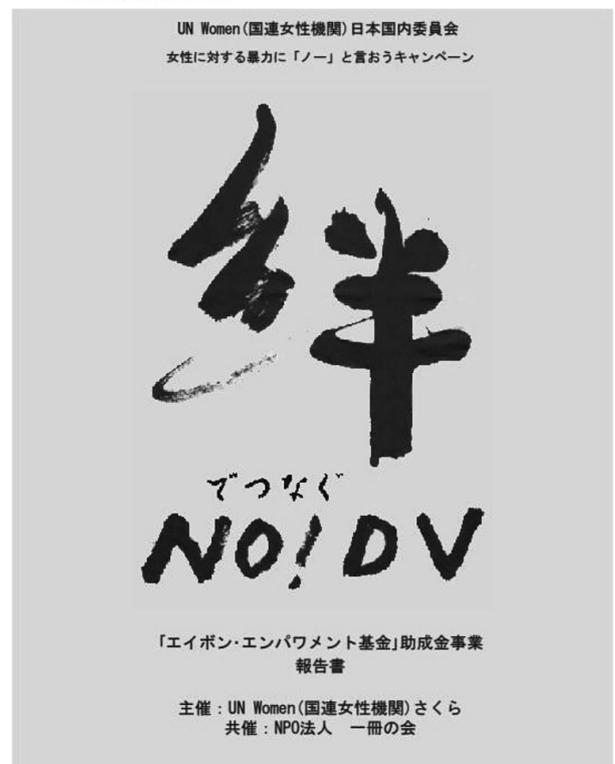


UN Women さくら

2月23日にエイボン助成金事業の暴力撤廃活動3回目としてUN Women さくら主催の「一冊の会・赤松良子世界インターネット配信」を利用しての全国配信を開催。

これまでの学びと活動の軌跡を代表メンバーが双方向的な情報交換システム方式で発表。DVときいてもどこか他人事、本を読んでも絵空事だったメンバーが、地道に輪読や法律の勉強会を重ね、昨年はDVのアンケート調査を全国に展開、また津波の被災地にて護身術を開催する等。職場での体験を織り交ぜながら専門家の高橋女史の目でみるDVの現状報告を静岡大学教授・馬居先生と情報交換。学習した結果を伝えるのではなく、最初は無関心だった自分が行動し変化し感じた事を伝える大切さを実感。受信メンバーからは多数の感想が寄せられました。数あるDVの根っこは同じ。物言わぬ聴衆・オーディエンスにいる自分を変えていきたい。継続は力なり！共に学び語り合い、心を寄せあう共感の絆を強く結ぶことができました。配信後に報告書「絆でつなぐNO！DV」を作成。多方面の先生方から思いもよらないお褒めのお言葉を賜りました。今後一層NO！DV活動に励んでいきます。

広報部



事務局からの報告

■2013年総会報告

2013年2月15日(金)午前10時から午後12時、女性の就業支援センター第2セミナー室にて2013年度総会を開催し、2012年度の事業報告・決算、2013年度事業計画・予算が承認されました。総会終了後、午後は内閣府共催「女性の活躍推進シンポジウム&交流会」を、同センターホールにて開催しました。

■事務局長代行マクシュリ・プリ氏の来日

パチェレ前事務局長の退任に伴って代行を務めるマクシュリ・プリ氏が、横浜で開催されたTICAD 5(第5回アフリカ開発会議)に参加のため、5月30日から6月3日に来日。国内委員会では会員や構成委員会会員の参加のもと、5月30日(木)、歓迎夕食会を東京・国際文化会館にて開催しました。

2012年度決算報告(2012年1月1日～12月31日) 単位:円
一般会計

■収入の部		■支出の部	
会費収入	2,340,000	拠出金	529,839
事業収入	0	事業費	3,086,028
寄付金収入	7,302,480	管理費	496,551
その他資金繰入	2,689,185		
雑収入	1,063		
当期収入合計	12,332,728	当期支出合計	12,422,418
その他資金			
■収入の部		■支出の部	
利息	932	一般会計に繰出	2,689,185
当期収支差額	-89,960		
前期繰越収支差額	13,348,671		
次期繰越収支差額	10,570,728		

■寄付者一覧(前号掲載以降2013.5月末日現在)

UN Women多摩 板倉幸子 リンクル化粧品

(株)ソシア 村松泰子 UN Women北九州 UN Women佐賀 UN Womenよこはま UN Women大阪 UN Womenさくら UN Women東京 UN Women堺 宮澤知子 横井千香子 藤田美恵子 森下由季子 彩歩の会 ビューティショップK 十文字学園生活協同組合 国際ソロプチミスト京都全国友の会 中央労働金庫 資生堂 資生堂花椿基金有志 永井多恵子 群馬婦友会 ハヤカワミエコ 酒井真喜子 橋本ヒロ子 鷺見八重子 国際ソロプチミストアメリカ日本西リジョン

■正会員団体19団体(2013.5月末日現在)

〈団体〉(公財)アジア女性交流・研究フォーラム NPO法人一冊の会 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 群馬婦友会 国際婦人年連絡会 堺市女性団体協議会 (財)佐賀県女性と生涯学習財団 NPO法人参画プラネット 全国友の会 ソシエテ彩 UN Women堺 UN Womenさくら UN Women多摩 UN Women東京 UN Womenよこはま (公財)横浜市男女共同参画推進協会

〈企業〉イオン1%クラブ (株)高島屋 日本たばこ産業(株)

■正会員個人39名(前回掲載以降2013.5月末日現在)

伊東みき 矢口有乃

■賛助団体12団体(2013.5.28末現在)

〈団体〉イエローライン (公財)京都市女性協会久留米市男女平等推進センター (一社)国際女性教育振興会茨城県支部 越谷ミズの会 (公財)せんだい男女共同参画財団 (一社)大学女性協会静岡支部 にいがた女性会議 日本生活協同組合連合会 浜松市男女共同参画推進センター

〈企業〉(株)グッドバンカー (株)電通

■賛助個人134名(前回掲載以降2013.5月末日現在)

佐伯律子 伊藤耕子 森下由季子 木山啓子 渥美由喜 三浦雅子 本田敏江

(認定NPO法人) UN Women 日本国内委員会

旧称:ユニフェム(国連女性開発基金)日本国内委員会

事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL. FAX. 045-869-6787

・Email unwomenihon@adagio.ocn.ne.jp

・ホームページ <http://www.unwomen-nc.jp>

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分

